

## 学長のコラム

### 卒業生アンケートから知り得たこと

2月9日(土)に恒例の「久しぶり、元気かい」が開催された。就職委員会の先生方、就職支援課の職員各位のご尽力に感謝いたします。この際、取られたアンケートの回収率は52.4%(189/361)であったが、満足度の肯定的な意見(満足+やや満足)と卒業後にディプロマポリシーで掲げている力が発揮できたかについての肯定的な意見(十分できた+できた)を学科別に平均値で示すと以下ようになる。(矢印の左の値は昨年度、右の値は今年度。)

学科	大学満足度	学科専攻満足度	学びは役に立っていますか	専門知識技術	連携協働	思考力判断力表現力	課題探求力問題解決力	多様な価値観	コミュニケーション力
医検	89%→88%	87%→91%	73%→83%	78%→87%	75%→89%	72%→72%	58%→77%	73%→83%	73%→76%
看護	89%→89%	93%→89%	82%→92%	86%→95%	75%→84%	82%→90%	79%→84%	79%→87%	86%→79%
リハ	93%→90%	94%→90%	81%→87%	84%→75%	87%→84%	76%→68%	64%→61%	86%→88%	75%→84%
平均	90%→89%	91%→90%	79%→87%	83%→86%	79%→86%	77%→77%	67%→74%	79%→86%	78%→80%

これらの値を見て皆様はどのような感想を持たれますか？

小生は、大学・学科・専攻に対する満足度が90%近いことはすごく高い値だと思うし、83~92%(全学平均87%)の人が、大学での学びが役立っていると回答しているのもすごいことだと思う。さらに、ディプロマポリシーに掲げている力についても、課題探究力・問題解決力のリハ学科が60%程度であるが、全学平均で74%以上の諸君が肯定的意見を回答していることも素晴らしいことであると思う。これらの結果が、教職員のご尽力の賜物であると誇りに思うと同時に、これらについての過去の値も含めて、良い教育をしているという証として、今後の大学広報に用いるべきであると考えている。

学科・専攻におかれては、自由記述の改善・要望についての対応もご検討いただければ幸いです。



### 2月・3月・4月の主な行事予定

2/25(月)	後期再試験(～2/28)
3/1(金)	(看護学科)臨地実習合同会議
3/2(土)	大学院一般選抜・社会人選抜(Ⅱ期)入試 後援会役員会
3/4(月)	センター利用(後期日程)入試
3/8(金)	卒業式・修了式・卒業記念パーティー センター後期合格発表
3/13(水)	銀杏学園 理事会・評議員会
3/15(金)	情報セキュリティ研修会 利益相反に関する研修会
3/19(火)	臨時理事会
3/20(水)	学内研究助成・研究成果報告会 アクティブ・ラーニングワークショップ
3/22(金)	看護師、保健師、助産師合格発表日
3/25(月)	認定看護師教育課程・脳卒中リハビリテーション看護修了式 臨床検査技師、理学、作業療法士合格発表日
3/26(火)	言語聴覚士合格発表日
3/27(水)	FDセミナー・修学ポートフォリオ説明会
3/29(金)	辞令交付式(退職、任期・期間満了)
4/1(月)	新任者オリエンテーション、辞令交付式
4/2(火)	入学式、実習認定式(看3年)
4/3(水)	新入生オリエンテーション(～4/8)
4/4(木)	前期ガイダンス開始(2・3・4年次)(～4/6)
4/8(月)	前期授業開始(助産)、新入生歓迎会
4/9(火)	前期授業開始(保健科学部)
4/12(金)	杏友会歓送迎会(熊本ホテルキャッスル)
4/20(土)	学部4年次保護者会

### 久しぶり、元気かい(会)

2月9日(土)、ホテル日航熊本におきまして、平成30年卒業生の同期会「久しぶり、元気かい(会)」を開催いたしました。その主たる目的は、懇談会を通して近況報告を行い、教職員と卒業生が相互に親睦を深めることです。今回で12回目を迎え、恒例行事となっております。

当日は208名(医学検査学科卒業生60名、看護学科卒業生27名、リハビリテーション学科卒業生66名、教職員等55名)の方々にご参加いただきました。この一年間で皆さまが一段とたくましくなった姿を見ることができて大変嬉しく思います。今後益々のご活躍を期待しています。

(文責：就職支援課)



### 平成30年度 ハラスメント防止研修会

1月24日(木)にハラスメント防止研修会を開催し、99名の教職員の方々に参加されました。講師としてNPO法人福岡ジェンダー研究所の理事 倉富 史枝 先生にお越しいただき、「ハラスメントアンケート結果に基づいた、ハラスメント防止・意識啓発について」というテーマで研修をしていただきました。アンケート結果以外にも他大学の事例や医療機

関でのハラスメントの実態などの話も

していただき、貴重な機会になりました。

(文責：ハラスメント防止委員会事務局)



### ちいき楽暮講演会報告

1月16日にテキサス大学コミュニケーション学部 Arvind Singhal 教授をお招きし、“Let’s look for Inside Out Solutions!” ～答えはコミュニティにある～というテーマで講演会を開催しました。静岡文化芸術大学の河村洋子氏による通訳も大変わかりやすく、学内外の70名余の参加者のアンケートでも、今後より深く学びたいという感想が多く聞かれました。ご講演の中で取り上げられたPD (Positive Deviance) アプローチは、昨今、様々な問題解決で用いられるようになっていく手法で、広くは企業等の組織改革、開発途上国での栄養改善やDV防止へのアプローチ、医療分野においては感染症防御や難病・障害者支援等についても国内外で導入が試みられています。地域における課題解決の手法としても今後ますます期待が持たれている分野

・手法について学ぶ機会をいただきました。

(文責：地域包括連携医療教育研究センター)



### 心と体の健康づくり研修会

1月24日、衛生委員会において職員の心と体の健康づくりへの取組みとして研修会を開催し教職員100名が参加しました。まずは、職員の皆様が安心して産業医にご相談いただける関係づくりのきっかけにさせていただくために、本学の産業医であり、ストレスチェックでお世話になっている熊本大学大学院 教授 大森久光先生をご紹介し、「セルフケア」として熊本産業保健総合支援センターの森田裕子先生よりご講演いただきました。

メンタルヘルス不調にならないためのポイント、考え方のクセ、考え方の見直し、そして、ストレス解消法など色々と学ぶことができたかと思います。働く人が心を健康に保つには、セルフケアが欠かせません。ぜひ、皆様の心の健康づくりに役立てていただければと思います。(文責：衛生委員会事務局)



### 平成30年度学術講演会

2月12日(火)に NPO 法人 EBIC 研究会 理事長 佐竹幸子様「地域ネットワークを活用した薬剤耐性菌 (AMR) 対策と感染対策への取り組み～専門職のキャリアパスの視点から～」というテーマでご講演いただきました。(文責：企画課)



### 国家試験お見送り

2月24日(日)の理学療法士・作業療法士の国家試験で本学学生が受験する全ての国家試験が終了します。ぜひ全員合格してほしいと思います。(文責：企画課)

### 看護学科 キャリア教育セミナー

2月7日(木)・8日(金)、本学におきまして、看護学科の学生を対象としたキャリア教育セミナーを開催いたしました。本セミナーは、学生の職業観を醸成し、職業適性や学生自身のキャリアについて考えることを狙いとしています。今回は九州内外88施設の皆さまにご参加いただきました。それぞれのブースにおいて、学生たちは熱心にメモを取り、各施設の仕事内容や教育体制、卒業生の活躍などの情報収集をしていました。3年生はこれから就職活動が本格的に開始いたします。自分たちの納得がいく就職活動ができることを期待しています。

(文責：就職支援課)



### 言語聴覚学専攻 国試激励会

2月15日(金)、言語聴覚学専攻4年生の国家試験受験に向けて、激励会を開催いたしました。当日は崎元学長や河瀬事務局長をはじめ、専攻の各先生方より、今までの国試に向けた努力を称える温かな励ましや試験当日に向けての心構えなどの激励のお言葉をいただきました。先生方からのお言葉をいただき、学生たちは国家試験合格に向けて気持ちを引き締めた様子でした。(文責：ST専攻 宮本恵美)



### 私の秘話ヒストリー

今回は看護学科の甲斐村 美智子 講師に投稿していただきました。

保育園児を抱えていた大学院生時代の私は、超朝型人間だった。仕事帰りに子どもを保育園に迎えに行き、自宅に帰るや否や家事と育児に奔走する。土日は弁当をもって近くの公園に行き、走り回る子どもの後を追いつけ回す。このような慌ただしい毎日だったが、2時に起床した後の静寂に包まれた数時間は様々なことを考えるには最適で、私だけの贅沢な時間だった。思い起こすと、私は中学生の頃から試験前になると朝型勉強法を取り入れていた。海馬にインプットされた情報は、睡眠中に取捨選択や整理整頓され、脳が大切と判断した情報はより強固なものとなったり、長期記憶になったりする。その一方で、不要と判断された記憶は海馬から消去される。このため早朝は海馬にすき間ができ、情報を記憶しやすいと聞いた記憶がある。子どもにも朝型勉強法を勧めているが、子どもはどうしても早起きができない。しかし、本学に着任して以降、当時の就寝時刻を過ぎて帰宅する生活を送るうち、私も子どもと同様に朝起きが苦手になってしまった。